

# 金融規制当局が自己の利得を考慮する場合の効率性分析

経済学部  
経済学科  
准教授

下田 真也



## 研究シーズの紹介

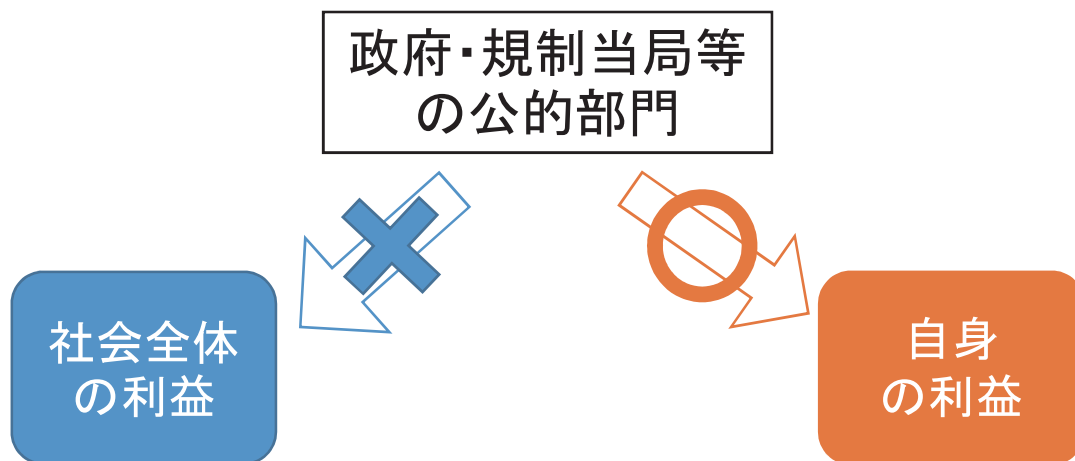
本研究は、政府や中央銀行のような金融機関の規制を担当する公的部門が、「社会全体の利益ではなく、自身の利益の最大化を意図している」という状況を問題点として捉えている。

その上で、規制当局が自身の利益最大化を求める場合に、金融機関に対する規制がどのように変化するか、また、その条件下でどうすれば社会全体として最も望ましい結果が得られるのか、という点を理論モデルを使って分析している。



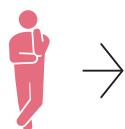
### 公的部門のとらえ方

- 「公的部門は社会全体の利益を考慮している」という先入観を排除することで、より現実に近い形での分析が行えます



## 期待される活用シーン

- 政府や規制当局の意図が計りかねる



そもそも規制当局の行動基準が、社会全体の利益最大化ではない、という前提に立つことで、理解しやすくなる